

令和元年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

校訓である「創造」「運動」「貢献」を具現化するために、生徒一人一人が相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す
②基本的生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

60数年にわたって築かれた伝統を継承するとともに、未来に向けて更なる学校の活性化を図る。そのために「生徒一人一人に寄り添い、伸ばす教育」の実践を行い、「人との絆」を大切にし社会で活躍する人材を育成するために、次の重点目標に掲げ、「人づくり」のために邁進する。
更に、今年度の合言葉として「弾む心、つなぐ心、明日を夢見る佐賀学園」掲げ、渡利と勉強や部活動に向かい、人との絆を大切にすることをもって、日々成長する生徒が育つ学校づくりに取り組む。
①授業の充実
教職員が日々自己研鑽に努め、分ける授業を実施するとともに面談・課題の提出を日常的に行い家庭学習の習慣化を図ると、さらに、資格取得の推進を図ることで、生徒を意欲的な学習に向かわせる。
②マナーアップ(正しい制服の着こなし・立ち振る舞い)
挨拶・服装・礼儀について年度当初にしっかり教育を徹底して行う。また、内面の充実(規範意識の醸成)を目指して、生徒の心に響く話をホームルームや個人面談で行い、自立心をもった落ち着いた生活態度、さわやかな言動を身に付けさせることで地域社会の信頼を得ることを目指す。
③教育環境の整備
清掃活動を重視し、生徒の机のまわりの整理や教室の整理整頓、校舎全体の環境整備をすることで、授業への雰囲気づくりや学校生活へ意欲向上を図る。また、同様に職員室の整理整頓、職員の机の整理を義務付ける。
④部活動の強化
部活動加入率を向上させ、部活動生徒を普段の学校生活の核になる人物に育てる。また、県高校総合体育大会等で優勝旗を4本以上とすることを旨とする。

4 前年度の成果と課題

年度の重点目標の達成は職員・保護者ともまだ不十分である。生徒の基礎学力向上は授業への意欲、マナトシの取組とともに改革が必要である。進路については成績高等部の進路について大きく課題が残る。地域から信頼される学校を目指して、生徒の学習意欲と学力向上、本校生徒として自覚ある立ち振る舞いの徹底を全職員一丸となって取り組まなければならない。また、多少改善が求められるものの制服の着こなしのマナーアップ、環境美化を推進する必要がある。部活動加入率の増加、部活動の実績については向上がみられた。生徒募集は対策案をはじめ教職員の努力はあったが、目標値を大きく下回ることとなった。佐賀市内中学校からの生徒の確保については厳しい状況が続いている。初任者研修については、成果がみられなかった。本年度は、昨年度に続き、地域から信頼される学校を目指して、生徒の学力向上とマナーアップ(服装と立ち振る舞い)が重要課題である。基礎学力の定着を含む学力向上のために、必要な新たな方法を早急に実行に移したい。マナーアップのために生徒の自覚喚起および全職員が徹底して生徒の指導に当たり本校のイメージアップを図ることが必要である。また、部活動のさらなる実績向上を目指す。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営方針	学校経営方針	・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知し、重点目標に積極的に取り組むことができた。 ・重点目標に使い、各分掌等での具体的な行動目標が実施できているか定期的に進捗状況を把握できたか。 ・職員の資質向上を図ることができたか。	・重点目標を知っている生徒・保護者の割合を昨年度以上に(昨年度生徒122名・保護者248名) ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を昨年度以上に(昨年度生徒43.0%・保護者57.3%) ・分掌・学年が決められた目標達成に向けて部長・主任へのアドバイスを頻密に行う。 ・職員研修の機会を増やす。また、授業見学を行い、職員との議論の機会を多くもつ。	・全校集会、振興会総会、学校通信で重点目標を生徒・保護者に知らせる。 ・各分掌部長と学年主任に対して月毎に面談し進捗状況を踏まえ目標達成に向けた取り組みを強化する。 ・初任者研修で若手職員の育成、授業見学によりベテラン教員の若手への指導を行う。 ・学校の教育活動をフアンペーパーで表せるような資料を考える。	B	・重点目標の取り組みについて、肯定的評価は生徒43.0%、保護者57.3%とほぼ昨年並みだった。マナトシ補完が実施できた。 ・重点目標に使い、各分掌等での具体的な取り組みが進んだと評価する。特に「授業の充実」について、多くの職員の意識が高まったことがうかがえる。 ・グラウンドデザイン形成までは進んでいないが、学校管理規則、各分掌分掌の内視点は、教職員が学校経営の視点から一定の規則・基準を設けて行うとする動きは進んだ。
	生徒募集 (広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生及びその保護者、中学校に正しく伝えられたか。 ・本校の取り組み姿勢に共感していただけたか。 ・受験者増加につながる募集活動が、育水の輝を放ちて全職員、学校をあげて行ったか。	・受験者数の前年度比110%、推薦・専願入学者数170名(推薦120名、専願50名)を目途とする。 ・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVDで本校の良さを知らせ、親近感を持たせる。 ・受験者増加につながる募集活動が、育水の輝を放ちて全職員、学校をあげて行ったか。	・募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に「進んでもえらる」新戦略を練る。 ・基礎・基本を重視した教育プログラム、充実した施設・設備を活用し情報処理教育の力、活発な部活動の実績をアピールする。 ・後進制のPR強化と有効な活用を図る。	A	・募集に関して、全職員での共有と協働によって、本校の良さ、後進制のPR等により推薦、専願入学者数179名の目標をクリアできた。 ・地域や中学生及び保護者から「進んでもえらる」学校になるように親近感を抱かせるような広報活動を進める。
	学校事務	・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・事務職員の接遇能力の向上を図ることで、来客者や来校者に学校に対する良い第一印象を持ていただく。 ・コンプライアンスを遵守する。	・接遇は来訪者に気持ちよい後方から元気に笑顔で実施する。 ・正しい敬語を意識した会話、またスピーディーな対応を心掛ける。 ・決められたルールを守る。	A	・来客者に気持ちよい事務職員が率先して接遇するよう心掛けた。 ・3コール以内の応答、取次についてもスピーディーな対応ができた。 ・敬語の正しい使い方については、所属内研修等でさらに向上させる。
教員活動	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加することにより指導力の向上を図る。 ・研究発表や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各分掌等で行う。 ・教育センターの研修講座に3年度で1回以上年間15名以上参加する。 ・各教科で所定数の研究発表を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・教科指導、進路指導、生徒指導などの領域で先進的な取り組みをしている学校を訪問する。	B	・各分掌で計画した職員研修を実施した。教育センターの専門講座に15講座に19名が参加し研修を行った。 ・各教科で計画した研究発表を行った。今後先進的な取り組みをしている学校について情報収集を行い、積極的に訪問し研究したい。
	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立と生徒の興味関心につながるわかる授業を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身に付けさせる。 ・各教科の授業を機能させ「分かる授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実施する。 ・平時より課題を設定し、評価する。	B	・分かる授業を実施するための研究を進め、教科でまとまり指導体制の充実を図る。 ・電子黒板の積極的な活用を図る。 ・毎朝「おはよう」「お昼」「おやすみ」となる発問(演習の指示)を意識して授業に取り組むことを意識する。
	進路指導	・各学年における進路意識が具体的な行動目標として定着したか。 ・進路ガイダンス等がキャリア教育に生かされたか。 ・進路実現するために基礎学力がつけられたか。 ・希望進路が具体的な進路実現に繋がったか。 ・生徒の覚悟のある進路実現に繋がったか。	・年内の就職内定100%を達成する。 ・進路ガイダンス等がキャリア教育に生かされたか。 ・進路指導講座や外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・成績優秀者を主とした国立公立大学、有名私立大学合格者数増加を目指す。	・国数英3教科の担当者と連携したマナトシの活用や長期休業中の進路指導を実施する。 ・担任によるFINE SYSTEMの活用により具体的な指導を活性化させる。 ・進路調査、適性検査などでの個々の客観的データを分析・検討し、担任指導で活用する。 ・就職希望者へのガイダンスでの企業説明会の充実、校内学力判定テスト前のセミナー及び面接指導を実施する。 ・三者面談、オープンスクール、企業研究等により、ミスマッチのない進路指導を行う。 ・新卒企業関係、企業訪問を例年通り実施し、卒業生の現状を把握する。	B	・長期休業中に学力向上のための希望者に対するセミナーの開催、3年生の自習支援や個別指導、マナトシ補完が実施できた。 ・就職内定率は、全体として高くなったが女子の内定率が低かった。職業育成や基礎学力の定着の取り組みを充実させる。 ・音・楽・情の生徒の体育、スポーツ等部以外の部会(有名私立大学への進路はあったものの合格者数に達しなかった。前期より志望校を決定し、入試対策について研究が必要である。 ・成績優秀者の生徒の有名私立大学合格者が昨年よりも増加。生徒間の学力差はあるが、上位層については成績維持、下位層については九州内の私立大学に対応できる指導を行う。
生徒指導	生徒指導	・制服は正しく着用できているか。 ・交通ルール・マナーは守られているか。 ・挨拶遣振事は元来よくできているか。 ・他人に対する思いやりを心を持っているか。	・制服を正しく着用する。 ・いっしょでも何でもマナーアップの意識を持つ。 ・他人・仲間とよくコミュニケーションを図り豊かな人間性を目指す。 ・SNSによるトラブルがないように注意する。	・型にこだわる指導と並行して内面的指導を加えていく。 ・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。 ・生活習慣の向上を意図させる。 ・SNS利用ルールを守り、不必要な使用を抑えさせる。	B	・関係機関と連携しながら生徒指導ができたことは評価できる。 ・交通安全に達したものが増加した。事故に遭わない最善な行動(事故に遭ったときの対応など)を指導強化する。 ・SNS利用のモラル指導を徹底する。
	環境美化	・清掃が隅々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。 ・校内美化の意識を向上させる。	・美化コンクールなどを実施する。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。 ・全員清掃の時間を設ける。 ・職員の清掃意識の向上を図る。	B	・清掃はよくできている。また、机と椅子にフェルトを貼って清掃は楽になった。美化コンクールの反省として、ロッカーの上などの整理整頓ができていない教室が多く、職員の意識がまだ低いように感じた。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し、社会的な能力や精神力を磨き、自己を高めているか。	・部活動加入率70%を目指して、担任・顧問との連携を密にし、各部活動の部員数を増加させる。	・部活動紹介を工夫し、生徒に興味を持たせる。 ・文武両道が実践できるように部活動のみならず授業にも真剣に取り組ませる。	B	・部活動加入率も増加傾向である。文武両道を重視し生徒一人一人が活き活きと生活できるように工夫したい。 ・素晴らしい実績を挙げている部活動が多く、顧問・部員一体となつた充実した活動が展開されている。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・所属学級担任・学年主任・授業担当者・教科担任者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われたか。 ・所属学級への復帰がなされたか。 ・教育相談室での学習に積極的に取り組める環境づくりを行い、生徒に達成感や満足感を味わえるよう指導する。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心をもち、所属学級へ戻るようサポートする。 ・学校行事や集会等にも積極的に参加できるように指導する。 ・教育相談室での学習に積極的に取り組める環境づくりを行い、生徒に達成感や満足感を味わえるよう指導する。	・職員の連携を密にするとともに保護者との連携を図り生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させる心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようサポートする。 ・所属学級の教科担任者と連携を図り、教材の準備や個別指導を実施する。 ・Q-Uを活用し生徒が安心して過ごせる学校づくりを行うためのサポートをする。	B	・相談室登校での学習を単位として認められているため、授業担当の先生からの課題をもとにした指導での学習への取り組み、進捗についてはルールを徹底して進められている。 ・友人関係の築き方、関係修復の仕方などは生徒同士で学んでいくところであるが、それが困難な生徒に対し、教員側がどのようなアプローチをするかの検討が必要である。 ・教室復帰に関しては課題が残る。SCや担任の連携、所属学級の学級づくりのためのQ-Uの活用など様々な側面から対応したい。
	礼法教育	・コミュニケーションの基本である挨拶、言葉づかい、面接マナー等が充分でできるか。	・学年進で積み重ねていき、3年次の進路面接に活かすと共に、社会人になっても活かせることを目指す。	・机上学習で礼儀等学び、礼法室での実技を通し体得させる。	B	・礼法検定については予定通り実施でき、内容もおおむね良好であった。総合的な探究の時間との連携を図りたい。
	生徒会活動	・校内の問題を自分たちで考え行動し、社会性の向上を図れたか。	・生徒活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。 ・地域行事への参加を通じ社会貢献を果たす。	・生徒会での議論の場を増やし、関連分掌・学年・学級との連携を図る。	B	・校内外で積極的な活動ができた。社会性の向上とともに社会貢献に力を入れた。
キャリア教育・マナトシ	キャリア教育・マナトシ	・毎日のマナトシの内容を理解させて基礎学力を身につけさせることができたか。 ・インターンシップを促進するための進路選択を促すことができたか。	・マナトシ及び基礎学力診断テストを活用することでGTZの値がD2ゾーン以上の学力に向上させることを目標とする。	・マナトシのよい活用方法を常に研究して生徒の学習のフォローアップを図る。 ・認定テストや基礎学力診断テストを分析して学力向上につなげる。 ・キャリアポートフォリオを活用することで進路保障に結びつけることができるよう指導の充実を図る。	C	・マナトシについては、取り組み意識の高い生徒も出てきた。半面、意識を持ちきれない生徒も多くなってきた。さらなる工夫が必要である。少しではあるが学力向上につながっている。 ・キャリアポートフォリオを活用できなかった。次年度以降の取り組みにつなげていくように必要部分を生かしていく必要がある。 ・インターンシップは実施でき進路選択に生かされている。 ・診断テストでD2ゾーンに向上させた生徒もいるが、3教科ともD3の生徒も多い。試験対策の時間を確保できなかった。

6 総合評価

重点目標に沿って、教職員が前向きそして生徒に寄り添った指導をしていた。マナー指導、部活動の充実などの面においては特に成果が見られた。吹奏楽、バレー・男子、野球などに全国レベルを意識して活動している部も多いことなど、本校の部活動は充実している。生徒会は学校行事など主体的に運営し、ボランティア活動も積極的に行っている。また、県の商業技術競技大会ビジネス情報部門で優勝するなど、商業系部活動も充実している。

7 次年度への課題・改善策

- ・教科内の協働授業や校務分掌を超えた連携を深めることによって業務の充実・効率化を図る。また、成績高等部と部活動の連絡・連携も密にしたい。
・授業の更なる充実・わかりやすい明確化、板書計画(電子黒板の活用含む)、壁にない時間の明確化、板書計画(わかりやすい)につながる明確な指示を出すすべての教職員が意識し、生徒たちの学力向上につなげる。
・部活動実績の向上...野球部の甲子園大会出場をはじめ、個人・団体問わず、県大会を勝ち抜いて全国大会に出場する部を増やす(元年度 男女別6種目)
・教育相談...不登校からの立ち直し支援、教職員研修の充実
・進路指導...基礎学力の向上、キャリア教育の実践、小論文指導の充実など
・生徒指導...外部から有識者を招いての委員会の実施、SNS利用のモラル教育の実践、外部機関との連携